



Big Brothers
&
Sisters Movement

—日—一—B—B—S—連—盟—機—関—誌—

Vol.219

2019

(令和元年)

9月・12月

合併号

ともだち

発行：特定非営利活動法人日本BBS連盟事務局

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-10-9 更生保護会館内 TEL 03(3356)7383 FAX 03(3356)7610

～更生保護制度施行70周年記念全国大会～

令和元年10月7日、東京国際フォーラムにおいて、私たち更生保護関係者は天皇皇后両陛下の御親臨を仰ぎ、更生保護制度施行70周年記念全国大会を開催しました。両陛下から温かい励ましのお言葉を拝し、私たちは課せられた責務の重大さを改めて深く認識し、地域に根差し、国内外のネットワークを広げて、安全で安心な誰一人取り残さない社会の実現に寄与していくことを誓いました。

そして、大会の最後は戸田会長による万歳三唱で締めくされました。



* * * も < じ * * *

- | | |
|--------------------------|-------|
| ・更生保護制度施行70周年記念全国大会 | 1-2 |
| ・社会を明るくする運動(八王子) | 3 |
| ・京都コングレス・ユースフォーラムに向けて | 4-5 |
| ・北から南から(北海道・関東・近畿・中国各地連) | 6-12 |
| コンセプト・スタディ、新会員研修会、新地区会発足 | |
| ・お知らせ | |
| 法務大臣感謝状、日B会長表彰、事務局長交代 | 13-16 |
| クラウドファンディング | |

更生保護制度施行 70 周年記念全国大会パネルディスカッションに参加して

東京・早稲田大学広域 BBS 会 尾亦 恭輔

10月7日、東京国際フォーラムにおいて「更生保護制度施行 70周年記念全国大会」が開催されました。この中で私、早稲田大学広域 BBS 会の尾亦は、愛知県 BBS 連盟会長の榎原さんと一緒に、パネルディスカッションのパネリストとして出演させていただきました。この大会は、日本で更生保護制度が施行されてから 70周年となったことを記念して開かれたものです。全国から保護司や協力雇用主、更生保護女性会、BBS 会、地方自治体再犯防止担当者などの更生保護関係者の方々が 5000 人も集まりました。



大会は二部構成で、第一部では更生保護関係の功労者の方々が表彰されました。また、天皇皇后両陛下や内閣総理大臣をはじめとした数々の要人から、功労者に対して祝辞が述べられました。

そして第二部では、各更生保護関係団体が今後どのように取り組んでいくかについて、パネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、法務省保護局、保護司会、更生保護女性会、協力雇用主、BBS 会、地方自治体それぞれの現在の取り組みや今後の意気込みが発表されました。

BBS 会員としてこのディスカッションに参加する上では、更生保護関係者の中にも BBS 会の活動をあまり存じでない方は多くいらっしゃるということを踏まえ、まずは「兄や姉のような、対等な関係を築く大切にしており、この関係性が同年代のボランティアの強みだと考えている」ということを伝えるようにしました。その上で、日常的な活動例や、京都コングレスユースフォーラム関係の海外での取り組みなどにも言及しました。ただ、そうした事柄以上に最もお伝えしたかったのは、「ぜひ遠慮なく BBS 会に依頼の相談をしてほしい」ということでした。せっかく全国からベテランの更生保護関係者の方々に集まっていたので、生きづらさを抱えた子どもや少年たちのニーズを拾う BBS 会の力が必ずしも十分ではないという現状をお伝えしたうえで、もし同年代のボランティアになにかできそうなことがあればいつでも近くの BBS 会や保護観察所に連絡をしてほしい、という点を強調しました。これに対して登壇されていた保護司会の方から、「保護司が常駐する更生保護活動の拠点である更生保護サポートセンターにおいて、BBS 会員も活動してもらえば、保護司会とのつながりも強化されるかもしれない」といった建設的な提案をしていただいたのは印象的でした。

今回ほどの規模の催しに登壇した経験はこれまでになく、準備をする中では緊張して言いたいことを忘れてしまうような場面もありました。しかし本番にいざ登壇してみると、登壇者・聴衆の方々はみな更生保護の関係者であるということもあり、会場の雰囲気はとても温かいものだったので、伝えたいことが伝えられたように思います。今回のような貴重な機会をいただいた法務省保護局の方々をはじめ、発表を支えてくださった方々に感謝いたします。



“社会を明るくする運動” 中央行事イベント参加報告

東京・八王子 BBS 会 松井 優佳

7月1日に有楽町駅前広場で行われた、第69回“社会を明るくする運動”中央行事イベントの立ち直りフェスティバルに、BBSとして当会員2名で出演いたしました。イベントは4部構成になっており、私たちは、山下法務大臣（当時）、中央区保護司会副会長、台東区更生保護女性会長、本運動のフラッグアーティストの谷村新司さんとのトークイベントと、今回よしもと社明アンバサダーとして就任されたバッドボーイズさん、横澤夏子さんとともに開催したクロージングイベントのミニコントに出演しました。

トークイベントでは、BBSの概要や八王子BBS会で取り組んでいる活動について話し、直接会場の方々にBBS会の活動を伝えることができ、非常に良い機会になりました。クロージングイベントでは、よしもとの芸人さんとともに更生保護やBBS会の活動について紹介するコントに、BBS会員役として非行少年に活動を紹介するという役で参加し、八王子BBS会の主催事業である「さがしてクッキング～ファーム&キッチン」と「親子ふれあい工作教室～凧づくり・凧あげ」についてスクリーンに写真をあげながら説明いたしました。立ち直りを支援するBBSの活動について、分かりやすくかみ砕いたコントとなっていたので、観ている方にも更生保護制度の具体的な内容について伝わったのではないかと思います。

私はこのイベントを通して、今まで私たちBBS会が取り組んでいた活動について理解してもらえる瞬間に立ち会えたように感じました。毎年八王子市実施委員会の“社会を明るくする運動”的頭広報活動とイベント「みんなに届け！私たちのメッセージ」に参加していますが、どちらも資料を渡しちゃなしなになってしまることが多く、自分たちの活動を直接広報できることは多くありませんでした。しかし、今回のイベントで私たちの活動内容や伝えたいことを自ら多くの方々に伝えることができました。拍手をしたりうなずいたりする姿を目の当たりにする度に、更生保護ボランティアについて知ってもらい、理解を得られたように実感できました。

昨今、少年や青年の再犯や悲惨な児童虐待事件が発生しており、更生保護制度の重要性はますます大きくなっています。今回のようなイベントを通して、もっと多くの方々にBBS会の活動について知っていただき、再犯のない社会を実現させたいと強く思いました。





～京都コングレス・ユースフォーラムに向けて～



前号、前々号でご紹介した京都コングレス（国連犯罪防止刑事司法会議）と、そのプレイベントとして開催されるユースフォーラムに向けての準備が着々と進んでいます。

第1回京都コングレス公開シンポジウム

兵庫・東灘区BBS会 田栗 江里奈

この度は東灘区BBS会の田栗が登壇させていただいた第1回京都コングレス公開シンポジウムにおけるパネルディスカッションのご報告をさせていただきます。

パネルディスカッションの流れは、まず京都コングレス・ユースフォーラムの3つの個別テーマについてパネリストの意見発表や紹介があり、その後ユース代表が意見や質問を述べ、最後、各テーマごとに、同志社大学の川崎教授からまとめの意見をいただくというものでした。



テーマ1の「青少年の犯罪予防・罪を犯した青少年の社会復帰における若者の役割」では、京都保護観察所の横地所長からのBBSの紹介の後に、私自身のBBS活動に対する想いをパネリストから質問されました。私は質問に対して、「BBS活動は相補的な関係のもとに成り立つもの」ということ、つまり、少年に模範的な良き兄や姉として接することにより少年に良い影響を与えるという意味を持つと同時に、関わっている自分達が様々なことを少年から学んでいるということ、また、「非行をした特別な子」というイメージを問い合わせ直し、1人の人間として向き合うことの大切さを学ぶことができるということを発言しました。

会場のユースに向けては前述のBBSの意義を含め、地域の様々な団体や機関と連携しながら活動をする青年ボランティア団体としてのBBSの存在を認知して欲しいということを話しました。

テーマ2の「法遵守の文化を醸成するための若者の教育」では、実際に授業で法教育に取り組まれている高校教師の野畠氏と弁護士の野坂氏より法教育の意義についてプレゼンがあり、「法と法律は違う」ということ、「法教育は法を守らせる目的としておらず、上から目線の教育ではない。法の背景にある様々な価値観を理解することに意義がある」という発言があり、私も学生時代に法学部で学んだことや、BBS活動にも重なるところが多く興味深いテーマでした。

実際、BBS活動においても、身近な若者がロールモデルとなり関わる少年や子ども達に、ルールやきまりを守ることの重要性を活動を通して伝えていくことがありますので、私達会員自身も常日頃から、法遵守が社会で生きていくために必要なことであると認識していると思います。そのため、こういった法遵守の文化を醸成するための取組みは私達BBS会員にも考えやすいテーマであり、今後の活動拡大にむけて活用できるものではないでしょうか。

テーマ3の「安全なネット社会に向けた若者の責任」では、弁護士の大谷氏から「ネットにより若者が犯罪の被害者になるリスク」について、UNODC（国連薬物犯罪事務所）犯罪防止刑事司法オフィサーのマキロイ氏から「ネットにより若者が犯罪の加害者となるリスク」について、それぞれプレゼンがありました。テーマの中で私が特に関心を持ったのは、マキロイ氏による、「ハッカーソン（若者を集め制限時間内に与えられたテーマに沿ったゲームやアプリをつくる）」を通じた海外でのネット犯罪防止の取組みです。テーマの例としては、テロリストの社会復帰に関するゲーム、犯罪者を摘発するゲーム等があげられており、日本でも取り入れると面白そうなものばかりでした。またネットを利用する若者が犯罪を取り締まる側にまわることができるということに主体性があり、興味深いと感じました。

全体の感想としては、シンポジウム自体は非常に中身の濃いものでしたし、当日聴衆として参加していた学生（大学生、高校生）は80名以上で、質疑応答の時間においても積極的に挙手をする多数の学生からユースフォーラムにかける熱を感じました。また、上川陽子元法務大臣はじめ、様々な方からの期待度は高く、「若者の柔軟な発想に基づいた現実的かつ積極的な議論」が求められていました。

シンポジウムに参加して思ったことは、「若者が主体的に活動をしている」ということ自体に意義がある、つまり我々のBBS活動は自信を持って世界に発信できるということです。

最後になりましたが、今回このような機会をいただきました、法務省の方々、日本BBS連盟には深く感謝申し上げます。ありがとうございました。2020年京都コングレスユースフォーラムにより、BBSが大きく飛躍できるよう、私も出来ること一つ一つを頑張っていきたいです。



第4回 世界保護観察会議



愛知県BBS連盟会長 楠原 葵

9月18日～20日オーストラリア・シドニーにて第4回世界保護観察会議が開催され、2020年4月に開催される京都コングレス・ユースフォーラムに向けて、全国から集まったBBS会員と共に、海外の更生保護制度や保護観察について学び、日本のBBS活動についても発表させていただきました。

合計19名からなるメンバーは5月に決定し、6月に初顔合わせを行いました。以降のやり取りはすべてメール等を使用して行ってきました。そのため、出発の日までほぼ初対面の状態で、お互いに馴染めるのか不安や緊張感がありました。しかし羽田空港で集合した直後から発表の直前まで資料や原稿の見直しに追われ、そんな心配をする余裕もなくスタートしました。

発表までの限られた時間の中でメンバー1人1人と話し、考えを共有しながら、方向性をまとめていく作業は、私達がチームとして一丸となっていくのを実感しました。そのため、気付いたときには出発まで抱えていた不安や緊張感は消えていました。

2日目に行った発表では、多くの方が聴きに来てくださり、私達BBSの考え方や活動を通して感じてきたことについて、終始あたたかく見守るように、真剣に耳を傾けてくださる姿が印象的でした。

発表が終わった日の夜には、誰からとなくホテルのロビーに集合し、それぞれがはじめに抱いていた緊張や不安を打ち明け、共有し、お互いの日常や趣味などについても語り合いました。6月に行った顔合わせでは世界保護観察会議での内容を詰めていく作業に追われていたため、日本全国から集まったメンバーでゆっくりとお互いのことについて話す時間もなかったので、この時間はそれぞれが求めていた時間でもありました。発表までは資料作成や見直しの作業に必死でしたが、この時間によって、今回参加したメンバーの心の距離が一気に近付いていくのを実感しました。

学生が大半のメンバーが、このタイミングで世界中の更生保護に関する専門家のみなさんと一緒に1週間を過ごした経験は、今後のBBSや私たちの将来の選択にも大きく影響していくのではないかと感じています。また、BBS内で見ても、今回の経験で全国に仲間が出来、メンバーの団結力もさらに深まり、2020年4月の京都コングレス・ユースフォーラムに向けての意識も高くなったのではないでしょうか。

世界保護観察会議に参加したBBS会員一同、学生という立場でこのような貴重な経験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。一方で今回の経験の中でまだまだ知らないことがたくさんあるということ、英語力を含め、各々の課題が見えてきました。メンバーは全国各地に散らばっていて、なかなか皆で顔を合わせることは困難ですが、それぞれの課題と向き合い模索しながら、2020年4月の京都コングレス・ユースフォーラムに向けて頑張っていきたいと思います。

そして最後になってしましましたが、第4回世界保護観察会議の参加について、日本更生保護協会、日本BBS連盟をはじめ、各地方BBS連盟や各都府県連盟の役員の皆様から、たくさんのご支援を頂きましたこと、深く感謝申し上げます。





各地方連盟からの報告が続々と届いています。

まずは、前号に引き続き、「BBS コンセプト・スタディ」中間報告、そして研修会や新会発足についてです。

コンセプト・スタディ

コンセプト・スタディとは、ポスト70周年プロジェクトとして昨年度から2年間の事業として展開されているもので、地方連盟ごとに有志の若者を中心とするチームを立ち上げ、時代に合ったBBS運動の姿を模索し、将来に活かすことが期待されています。

最初の報告は、北海道地連が取り組んでいる「BBS・沼田町・沼田町就業支援センター3者連携プロジェクト」です。今回は、企画・運営の中心となっているSGU(札幌学園大学)江別BBS会会員、四国地連から同プロジェクトに参加した会員、そして、沼田町就業支援センターから見た同プロジェクトについても報告をいただきました。

続いて、近畿、中国両地連からも、よく練られ実施された素晴らしい活動報告が届いています。

北海道地連から

(1) 沼田町プロジェクトについて

札幌・SGU 江別 BBS 会 高橋美佳

「ここは安心するんだよね」

ある少年がそう言った。それが本心かはわからない。けれど少年たちにとって沼田町での環境というのは大きなものだと私は考える。人がたくさんいてカラオケがあってゲームセンターがあって栄えている町にはない、緑豊かな自然な場所だ。

2日目から農業実習をした。最初はシイタケハウスで収穫をしたが、大きくなったシイタケは収穫がとても楽しかった。また綺麗なシイタケを採れたときは、嬉しくもあった。少年との会話を楽しみながら普段できない経験が出来たことがよかったです。私は人見知りするタイプだが、向こうから積極的に話しかけてくれて、質問をしても笑顔で返答してくれて嬉しかった。

次にグループワークについて、1日目のグループワークは体育館でドッヂビーとソフトバレーをした。やはり去年同様スポーツをしたり体を動かしたりするものはとても盛り上がった。しかし、盛り上がった故に上手くまとまることが出来ず時間が押してしまったりした。

3日目にあった施設での協力関係交流会があった。そこで話を聞いてみると沼田町明日萌会は「特別なことはしない。普通の子と同じように接している」と言っていた。また引き込むとも言っていた。特別視しないで町民と同じように接するのは、地域での支援だと思った。

しかし、施設ができる際は反対意見もあり、二つに分かれたらしい。でも今は批判も少なくなっていると言っていた。私自身もそうだが、実際に少年と関わることで印象が変わることもあると思う。また、沼田町という町のサイズと施設と規範を決めたことが良かったと言っていた。同じように、そこに住む住民が納得いくような規範を決めることで地域での共存が可能になるのではないかと考えた。

最後に、このプロジェクトを通して、改めて「更生」とは何かを考えた。例えば地域から孤立した場所に施設があり、そこで決まった生活をする。これは更生に繋がるのだろうか。私は、更生とは人との中で更生されていくものだと思う。人との関わり、そして人の暖かさが意識を変える。そのことを沼田町の地域での取り組みをみて感じた。

2年間のプロジェクトは最後だが、私たちに何か出来ることがあるのならお手伝いしていきたいと強く思っ

た。沼田町という地域、また沼田町就業支援センターと出会うことが出来てよかったです。参加させていただき、ありがとうございました。

(2) 北海道沼田町「ほたるの里へ GO」プロジェクトに参加して

香川・高松地区 BBS 会 石川 寛皓

まず初めに法務省・沼田町就業支援センター、日本 BBS 連盟の他、更生保護関係機関等の連携プロジェクトである「ほたるの里へ GO」を企画・運営して下さった多くの皆様にお礼を申し上げます。貴重な経験をさせて頂き、誠にありがとうございました。

私がこの研修を通して一番印象に残ったことは、少年たちを「特別視しないことが大事」であるということです。

沼田町就業支援センターに入所するのは、更生保護法における 1 号観察、2 号観察を受けた少年たちであるという説明を最初にお聴きしました。しかし実際に少年たちと農業実習やグループワークで交流してみると、少しやんちゃなくらいで根は優しそうな少年たちばかりで、私は「世間でいう非行少年のイメージは、単なる蔑視のレッテルだけではないのか」と感じました。

近年では地域におけるコミュニティの崩壊によって、各々の人間関係が薄れてしまっている昨今、教えとして不審者に気を付けてだとか、知らない人とは関わってはいけないといった、ある意味で怪しい人、犯罪を起こしそうな人に対する一種の偏見が見受けられます。沼田町就業支援センターに入所する少年たちも、そのような奇異な目で見られ誰からも理解されず、社会からの孤立を感じた結果、残念ながら非行に走ってしまったのだと思います。ここでの体験等を糧にして早く更生し、社会の一員に戻ってきて欲しいと願わざにはいられません。

話は少し変わりますが犯罪防止の考え方として、犯罪者的人格に着目した「犯罪原因論」と犯罪が発生する環境に着目した「犯罪機會論」というものがあります。この二つの見方として、前者は更生保護制度がその最たるもので、後者は防犯カメラや防犯パトロールなどがイメージしやすいかと思います。私は犯罪のない明るい社会を目指していくためにも、この両論の考え方も必要で重要なと考えています。

「罪を憎んで人を憎まず」という言葉があります。つまり、問題とすべきは悪しき環境であり、人を指さして「あの人は怪しい」と非難するのは間違っているのではないでしょうか。私はこれからも BBS 活動を通して、少しでも社会から孤立した少年たちに手を差し伸べ、悲しい過ちを犯させないよう努力したいと痛感しました。



(3) BBS・沼田町・沼田町就業支援センター 3者連携プロジェクトについて

旭川保護観察所沼田駐在官事務所（沼田町就業支援センター）

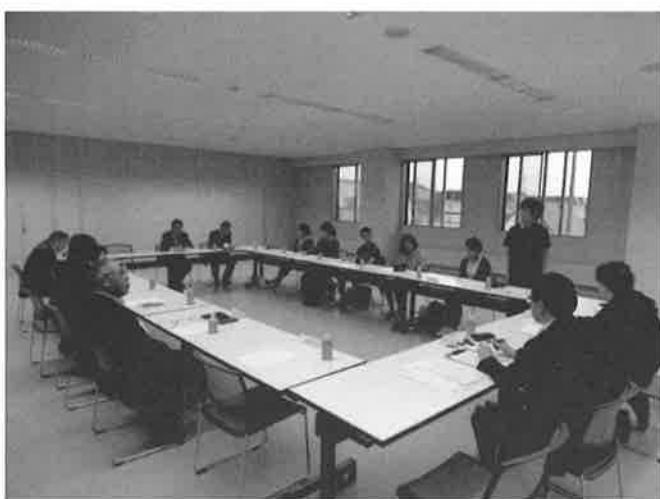
統括保護観察官 藤江 和史

令和元年9月9日から12日に沼田町就業支援センターにおいて、3者連携プロジェクトが催された。このプロジェクトは、センター開設10年を経て、新たな取組として催されたものでありセンター、沼田町、BBSの3者(団体)が協同して行うプロジェクトになっている。その趣旨は、BBS会員や大学生等の若い世代が、沼田町就業支援センターに入所する少年と農業実習等を通して交流を図ることで、入所少年の改善更生を促進するとともに、次代に向けてBBS会を活性化させることや、非行少年の立ち直り支援に町を挙げて取り組んでいる沼田町の取組を全国的に広報することで、地域と連携した更生保護に対する国民の理解や協力を促すことである。

そのような趣旨の下、昨年度は東日本、今年度は西日本のBBS会員や大学生等に呼び掛け、道内のBBS会員にもサポート役を含めて参加してもらったところ、たった4日間という短期間のプロジェクトにも関わらず、センターに入所中の少年達は、同年代の若者達と交流することで活気を漲らせ、一緒に農業実習やグループワークをしたり、日々の悩みを相談したりしながら、大いに楽しんでいたように思われる。センターに入所中の少年達は、いつも周囲は大人ばかりという環境の中で生活を送っていることもあり、非常に新鮮で開放的な気分を味わえたものと思われ、なかなか私達大人の前で見せない姿も見受けられたことからも、若者には若者の支援の必要性や大切さを、つくづくと感じさせるプロジェクトであった。

また、日頃沼田町と連携を取りながら少年達の更生を目指して取り組んでいるが、そこには従来から存在する更生保護協力団体だけでなく、沼田町民の方々がセンターの設立に合わせて発足させたボランティア団体である、「沼田すずらんの会」や「沼田明日萌の会」も大きく関わっている。このプロジェクトでは、そのような町を上げての立ち直り支援について全国のBBS会員等に知ってもらうことができたので、今後の活動に繋げてもらうことで広く国民に理解や協力を促してもらえることを期待したい。

このような観点からも、平成30年度から2回に渡って行われたこのプロジェクトは成功を収めたと思うが、センターに入所している少年達の更生のためにも、また、沼田町を始めとした地域を上げての支援の輪を断ち切らないためにも、今後も定期的にこのようなプロジェクトが行われることが望ましく思われる。



近畿地方 BBS 連盟ではコンセプト・スタディを各県連から若手会員をあつめて取り組んでおります。内容としては、BBS 会員のレベル担保のための会員研修を新たに考えること、そして、各県連が行っている得意なワークを他の県連でもできるように落とし込むことです。これらのことを行い、今後の近畿地方 BBS 連盟の新たな活動を拡げていく可能性を見出していきたいと考えています。

このことをコンセプト・スタディにしようと考えたきっかけは会員研修でした。近畿地方 BBS 連盟では年に1回会員研修を連盟で行っています。また、私が所属する兵庫県 BBS 連盟でも、新人研修、また京都と兵庫の合同研修なども行っています。そうした中で、内容に振れ幅があることに気が付きました。ともだち活動が多い地域が主催する地域では、コミュニケーションをメインに研修を行っています。自立支援施設でボランティアを行っている地域では、法律の内容も取り入れています。例えば、少年事件を起こした対象者がどのような経緯、経由で BBS に関わっているかを知る必要があると考えているからです。なぜ私たちが、保護司さんや更生保護女性会と連携する必要があるのかを学ぶ必要があるのではないかでしょうか。3年前から近畿の中で、大学教授にお願いして、模擬裁判や法律の内容の研修も部分的に行っていましたが、地区会や県連によって研修に差がついています。

会員によっては、グループワークに多く参加できていて、実地の活動がよくできているものから、参加はなかなかできないもの、グループワークには参加できないがともだち活動を特にしているものなど様々です。これはどこかのエリアでも同じではないでしょうか。そのうち、どこまで会員が理解しているのかが話題にあがるようになりました。一律で研修していて果たしてよいのだろうかということです。そのため、地方連盟全体でレベル別の研修を作るという話になりました。

また、活動拡大を考えていくことも課題の一つであり、少年事件が減ってきて、ともだち活動やグループワークに参加する対象者が減ってきており、また、あるエリアでは担当官から、他の活動も見出した方が良いという声があったということでした。会員がいないのではなく、会員がいるのに活動ができないという現象をどうにかしたいと思っております。

コンセプト・スタディの当初は、研修内容まで落とし込むという話でしたが、メンバーを各県連から集めていること、またコングレス参加者も多くいるため、必要なものをまとめ次につなげるという方向で決まりました。現在までは、LINE やスカイプでの会議を行うとともに、実際に対面でのミーティングをしました（秋以降は経費を削減するためにできるだけオンラインミーティングを実施）が、この秋に内容を一度まとめます。また各地区会にアンケートを取り、どのような研修をしているか、またどのような活動をしているか、会員研修の際に更生保護や対象者についてどのように伝えているか、困っていることはないかななどアンケートを取りました。そこから、研修内容と活動拡大のテーマに絞りました。

秋以降からは、まとめたものの検証を行う予定です。例えば、児童自立支援施設への訪問や、保護司・更生保護女性会へのインタビューなどを行う予定です。また、外部組織の方を招いて勉強会も開く予定です。

研修については、BBS の歴史・概要や刑事手続き、コミュニケーション（家庭裁判所の学習補助の場面のロールプレイなど）、家庭裁判所や保護司・更生保護女性会など外部組織から求められること（ヒアリングが必要）をまとめる予定です。また、近畿地方 BBS 連盟内の特徴的な活動を取り上げ、他の BBS 地区会でも汎用できるようにまとめ、活動拡大を模索しようとを考えています。今回、取り上げる予定のものは、京都の和泉学園など施設での学習補助、滋賀県の子どもの居場所づくり等の「寺子屋教室」、メンタルフレンド、兵庫の4者（BBS、保護司、更生保護女性会、大学）連携事業です。このようなコンセプト・スタディを通して、連盟内での会員の知識レベルの上げ、各地区会の活動を支援し、また、新しいことに取り組みやすいように BBS の活動拡大、可能性を見出していく考えています。

<和泉学園 PT の打合せの様子>



<滋賀の寺小屋>





1 これまで

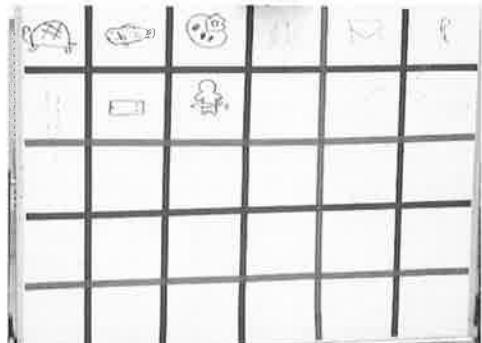
中国地方 BBS 連盟では、BBS の新たな活動の在り方を模索し、広島県県民活動課、児童福祉機関、協力雇用主会等との連携を通して事業展開を検討中のところ、この 8 月に児童福祉機関において事業を行ったので報告します。

2 事業の概要

- (1) 期日 令和元年 8 月 29 日 (木) 9 時～11 時 45 分まで
- (2) 場所 広島県内こども家庭センター
- (3) 内容

・絵しりとり

スタートの人が描いた絵に、次のは前の人気が描いた絵の最後の文字にはじまるものの絵を描いていく「しりとりゲーム」です。



・お絵かき

クリアファイルにマジックで絵を描き、描いたものをスイカ割りで使用する棒に巻いて飾りました。



・スイカ割り

スイカ割りで使用する棒は柔らかいクッション系の棒とし、何度も楽しめるようにしました。

3 参加会員の振り返り 東広島地区 BBS 会会員より～

本勝 仁志

この度、様々なご縁が重なって広島県のこども家庭センターさんでレクリエーションをさせていただきました。実施にあたり、スイカ割りの目隠しであったり、絵しりとりで描くことに対して難しいなど感じる子がいたり、年齢差が大きかったりといった様々な課題がありました。そのため、施設の特性を考慮したルールの難易度と内容の構成を考えるのは難しいなと思いつつも奥が深かったです。初回の反省としては、レクリエーションの時間にもう少し幅を持たせ、余裕をもってアクシデントに対処しようという意見が出ました。この活動を継続し、こどもたちに少しでも楽しい思い出を残すことができたらいいなと思います。

才木 透羽

初めてこども家庭センターのこども達と会うことになり、どのように接したらいいのか分からずとても緊張しました。しかし、レクリエーションをしたり話したりしていくうちに、こどもから声をかけてもらえるようになり、とても嬉しかったです。また、今回のレクリエーションではちょっと詰まってしまうところもあったので、これからはどんな年代でもどんな子どもでも楽しめるような企画を考えていきたいと思いました。

中村 加奈

最初は、こども家庭センターの子どもたちと遊ぶという活動は初めてで、不安や緊張もあったのですが、話しかけたら楽しそうに話してくれたり、慣れてくると「先生！」と子どもたちから話題を持ってくれたことが嬉しく、不安や緊張もなくなりました。

メインイベントのスイカ割りでは、小さな子たちを担当し、たくさん子どもたちに楽しんでもらうことができたと思います。職員さんや私たちの声かけで見事にスイカを叩けた後に「楽しい！」と笑ってくれたことがとても嬉しかったです。またこのような機会があれば、より子どもたちに楽しんでもらえるようなゲームを考えていきたいと思います。

関東地連からー先輩 × 新会員交流会に参加して

千葉・銚子BBS会 江藤結希

BBS会へ入会して早2年8か月が過ぎましたが、関東の学生会員が中心となって行われる研修会へは、この間わずか1回しか参加していませんでした。同年代の方だけでなく、社会人の方々や私よりも年齢が年下の会員、BBS会に入会してから間もない方々を巻き込んでの研修会に参加するのは初めてであったため、実行委員として会場にいる方々全員をまとめなくてはならないプレッシャーだけでなく、会員としての経験が浅い方々へいかに会としての役割や存在意義などを伝えるか、困惑する状況が研修会当日数日前から続きました。

結果として研修会は無事成功し、実行委員としての責任と新会員の方々へ会としての役割を伝える任務も果たせました。大きなトラブルもなく皆がBBSに関した話し合いを進めていた光景を目にして、このような若い世代の会員が関東各地の会に所属しているのであれば、この先数年はこれまで通り、BBSの存在を知る人が増えていくだろうと安堵しました。

フリートークと昼食の時間帯においては、地区紹介が終了した直後ということもあり、各地区が抱えている問題と現在進めている活動の内容を皆様と共有することができましたから、ある問題に対して他の地区会に所属している方々から解決策を頂戴したり、活動内容の詳細をより分かりやすい形で伝えることは、私以外の実行委員や新会員の方々も達成できたと思いますし、パワーポイントを使って各々の地区紹介を進めていた方が大多数でしたから、内容を伝わりやすくしたり、言葉だけでは表しにくい行事の詳細をできる限り参加者全員が理解できるよう工夫するといった点に着目すれば、今回我々が会場にモニターを置いたことは、研修会の成功を見据えた上でも正解だったと感じました。

昼食を班ごとで撮ったり、その班の構成を研修会数日前に練り、フリートーク以外の活動でも班ごとの進行を取りさせる形式は、2月に行われた研修会とは異なるものでしたので、これが実行委員のオンラインミーティングにて確定した際は戸惑いましたが、それぞれがバラバラになることなく、班の仲間と協力し合って意見を発したり、ある人の考えに共感したりといった動きが見られました。また、新会員が先輩と時間を共有することにより、BBSの具体的な役割やどういった対象の方々にフォーカスをあてた団体なのかがはっきりと認識できます。これらのことを行うことで並べるだけでも、数か月に一度開催されている研修会の意義が分かります。

研修会に参加し、次の研修会で実行委員に所属して新会員へBBSとしてやるべきこと等を伝えていきたいという考えが芽生えた方が増えるだけでも、個人的には満足ですし、他の地区会に所属している方に自分の地区会が抱えている問題についての助言をいただき、後日行われる定例会・全体会議にそれを持ち帰り、助言の内容を会全体に共有させてから実行に移すことができれば、地区会独自の悩みが多いことから参加した人にとっても、最後は満足した表情を浮かべながら会場を後にすることができます。

この度の研修会は私を含めた実行委員や当日参加して下さった各地区の学生会員の方々、そして既に社会へ進出されている方たちと会場であった更生保護会館を管理なさっている方なしでは成功はなかつてしまふ、それを果たすために懸命な努力をして下さったこれらの方々に感謝致します。





はじめて(新学域 BBS 会発足)

栃木・宇都宮大学学域BBS会顧問、栃木県BBS連盟監事
宇都宮大学教育学部教授（社会福祉学）長谷川 万由美

私の専門は社会福祉、なかでも地域福祉を中心に研究を行っているため、授業ではNPOやボランティアの歴史を扱うこともあり、戦後日本の、とくに若者のボランティア活動を考える上で、必ず知っておいてもらいたいこととしてBBSについては以前から授業でも教えていました。文献などから伺い知るしかないので、戦後の混乱の中、1946年に非行少年の立ち直りには年齢が近い健全な青少年が友達としてかかわることが大事だという一学生からの投書が「アメリカのBBS運動を日本にも!」と考えていた少年審判所職員の目に止まり、翌年には500人以上が参集してBBSの原点と言える京都少年保護学生連が結成されました。若者のエネルギーと偶然とが重なり、社会を動かす大きな流れを作っていました当時のBBS運動には大きな魅力を感じていました。

しかし、個人的には接点がなく、私が勤務する宇都宮大学では以前は学域BBSが活動していたようですが、ここ十年ほどは学内で名前を聞きませんでした。5~6年前に学生から社会で見守りが必要な子どもにかかわる活動が何かしたいという申し出を受け、そのような活動の原点であるBBSにぜひ学生を参加させたいとの思いから、保護観察所に連絡を差し上げて県内のBBSの活動をしている方々との関係が始まりました。そして今年の春には、学生主体のサークルとして活動できそうなところまで成長してきました。

夏には関東地方連盟主催の新入会員研修に学生とともに参加させていただきました。私にとっても学生にとっても初めて他の大学で活動する学生と会う機会でした。午前の活動報告では、100人近くの会員を持ち、様々な活動を展開しているところから、少ない人数ながら地域に根差した活動を着実にされているところまで、様々な活動が関東で行われていることがわかり大変刺激になりました。また午後の活動の研修では子どもとの関りの悩みあるあるをどうするか、グループでの討議が続きました。先輩会員が新入会員にアドバイスし、新人会員もその様子をあこがれのまなざしでみると自然とみられ、BBSでのともだち活動と重なりました。自分がメンター(先輩)に支えられたという、このような経験が、自分がメンターになるときの大きな助けになるでしょう。

戦後、京都で活動が始まったころと子どもを取り巻く状況はもちろん大きく違っていますが、一人ひとりとしっかり向き合うことがどんな子どもにも大事であるのは変わらないはずです。それこそBBSが戦後ずっと積み重ねてきたことだと思います。学生たちには、BBSのネットワークとノウハウ、そして若者の発想と行動力で、非行だけでなく貧困やいじめなどを背景として、社会から取り残されてしまう子どもたちにも、さらに活動場所を広げていってほしいと思います。

参考 渡辺かよ子(2012)「日本のBBS運動の発祥展開と「ともだち活動」：メンタリング運動のモデル移行論の視点から」愛知淑徳大学論集―文学部・文学研究科篇一 第37号 2012.3 121-136



お知らせ

祝

受彰おめでとうございます

令和元年度法務大臣感謝状受彰のみなさんです！（敬称略）

令和元年10月7日、更生保護制度施行70周年記念全国大会にて、授与されました。

地連	県連	氏名	地連	県連	氏名
東北	福島	根本周七	四国	徳島	西岡賦文
関東	新潟	今井みどり	九州	福岡	下濱絵里香
関東	静岡	本間雄大	九州	大分	上野浩二
関東	東京	舟生美絵	九州	鹿児島	兒島武志
中部	福井	島琴美	中部	三重	津BBS会
近畿	和歌山	大谷京平	九州	大分	佐伯地区BBS会
中国	広島	新川秀明			

令和元年度日本BBS連盟会長表彰受彰のみなさんです！（敬称略）

各地方連盟の大会及び研修会にて、授与されました。

地連	県連	氏名	地連	県連	氏名
北海道	札幌	藤田幸央	近畿	大阪	吉光信昭
東北	青森	金澤拓紀	近畿	大阪	辻幸宏
東北	山形	樋渡由美	近畿	兵庫	水池邦彰
東北	福島	高橋明史	中国	広島	柏原志保
関東	埼玉	堀内弘之	中国	広島	小澤郁美
関東	神奈川	佐藤弘明	中国	広島	今川美香
関東	神奈川	前田桃子	四国	愛媛	渡邊寛
中部	富山	数川英一	九州	大分	森竹美幸
中部	石川	高出健志郎	九州	大分	福島婦美子
中部	愛知	榎原葵	九州	鹿児島	平井優子
中部	三重	鈴鹿市BBS会			

コンгрレス展示ブースの出展決定！

4月20日から27日までの京都コンгрレスの期間中、そのテーマである『2030 アジェンダの達成に向けた犯罪防止、刑事司法及び法の支配の推進』及び日本文化に関する展示が行われることとなり、日本BBS連盟も他の企業や団体と並んでの出店が決定しました。

事務局長退任の挨拶

廣川 洋一（事務局長退任）

お世話になりました。

平成 29 年 4 月から 2 年間、日本 BBS 連盟事務局長を勤めさせていただきました。戸田会長はじめ現役及び OB 会員の皆様にご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

平成 29 年 9 月の 70 周年記念式典や昨年の中央研修など、オリセンでは予想もしないハピニングが連續し、今ではそれも貴重な思い出です。機関誌に加えて、70 周年記念誌も発刊できました。

BBS 運動に対する外部の評価と期待はますます高まっています。その一方、OB 会の皆様が心配されるように、独善に陥らず、関係機関団体と連携し、若い会員を支える組織づくりが重要です。

これからも次々発生する社会的課題に立ち向かい、BBS 運動が継続され、連盟はますます発展していくことでしょう。

事務局長新任の挨拶

西瀬戸 伸子（事務局長新任）

本年 7 月、廣川事務局長の後を引き継ぎ早や 5 か月ほどが経ちます。これまで私は長く更生保護の分野で仕事をしてきましたが、BBS の皆様とお会いする機会はありませんでしたので、これからいろいろと勉強しながら、お話を伺ったり活動に参加させていただいたりすることを楽しみにしております。

折しも、今年は平成から令和に元号が変わり、また、更生保護制度が 70 周年を迎えた節目の年となり、BBS 運動もこれまでの伝統を引き継ぎつつ新しい時代の要請に応えていくことが期待されています。その中にあって、若い会員の方々が来春の京都コングレスやユースフォーラムに向けて、のびのびと世界に発信し高い評価を得ていることをうれしく思います。世界の多様な価値観に触れ、人々とのつながり築くことによって得られた経験は、きっと今後の地域での活動に活かされることでしょう。

「過去から未来へ」と続けられてきたこの運動を「つぎの手」にしっかりとつなげていくとともに、会員の皆様お一人お一人にとっても BBS での経験が将来の糧となるよう願い、私も及ばずながら力を尽くしていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

